

大学・大学院  
留学生  
の  
日本語

① 読解編  
Reading Comprehension

Japanese  
for  
International College / Graduate Students

アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著

——会員一覧——

小山 宣子 (おやま のぶこ)	弘前大学	市瀬 智紀 (いちのせ とものり)	宮城教育大学
小池 恵己子 (こいけ えみこ)	弘前大学	中島 美樹子 (なかじま みきこ)	東北大学工学部
大口 孝子 (おおくち たかこ)	秋田大学	*稲村 真理子 (いなむら まりこ)	東北大学
佐々木 順子 (ささき よりこ)	秋田大学	内山 敦子 (うちやま あつこ)	東北大学
宮本 律子 (みやもと りつこ)	秋田大学	佐藤 勢紀子 (さとう せきこ)	東北大学
岡崎 正道 (おかざき まさみち)	岩手大学	仁科 浩美 (にしな ひろみ)	東北大学
松岡 洋子 (まつおか ようこ)	岩手大学	福島 悦子 (ふくしま えつこ)	東北大学
山田 一裕 (やまだ かずひろ)	岩手県立大学	山口 弘美 (やまぐち ひろみ)	東北大学
高木 裕子 (たかぎ ひろこ)	山形大学	川上 郁雄 (かわかみ いくお)	早稲田大学

(2005年3月現在。\*は執筆担当者)

このテキストについてのご意見などありましたら、下記までご連絡ください。  
〒980-8576 仙台市青葉区川内  
東北大学国際交流センター 気付  
アカデミック・ジャパニーズ研究会

## 大学・大学院 留学生の日本語 ①読解編

2001年10月10日 初版発行      2005年4月30日 第6刷発行

編著者 アカデミック・ジャパニーズ研究会

発行者 平本照磨

発行所 株式会社アルク

〒168-8611 東京都杉並区永福2-54-12

電話 03-3323-5514(日本語書籍・MOOK編集部)

03-3327-1101(カスタマーサービス部)

印刷所 図書印刷株式会社

©2001 アカデミック・ジャパニーズ研究会

Printed in Japan

乱丁・落丁本はお取り替えいたします。(定価はカバーに表示してあります)

地球人ネットワークを創る  
株式会社 **アルク**  
<http://www.alc.co.jp/>

# 大学・大学院 留学生 の 日本語

① 読解編  
Reading Comprehension

Japanese  
for  
International College Graduate Students



アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著



## はじめに

『大学・大学院留学生の日本語』は、日本語の高等教育機関の専門分野の勉強をしようとする留学生などのために作成されたシリーズ教材です。これから日本の大学に入る人、高専や大学で学んでいる留学生、大学院入学をめざす研究生、大学院で研究している留学生や外国人研究者など、学術的な専門分野で勉学・研究をしようとするすべての日本語学習者が対象です。また、このシリーズ教材は、各専門分野にはほぼ共通する専門日本語の土台の部分を取っていますので、文科系、理科系を問わず、どの分野の学習者にも役にたつ内容となっています。日本語の学習段階でいえば、読解編と作文編は中級、続刊の論文読解編と論文作成編は中級後半から上級に対応しています。

このシリーズ教材の最大の特徴は、専門分野での勉学・研究に不可欠な論理的思考による理解・表現能力の養成をめざしている点です。日本語の文法の積み上げ学習をし、たくさんの言葉を覚えても、論理的な文章の読み書きのしかたがわからないために、大学・大学院での勉学や研究に困難を感じている学習者が少なくありません。そこで、論理的な文章がどのようなものかということが練習を重ねていくうちに自然にわかり、最後には論理的文章を読み書きする力が確実につくような教材として、このシリーズ教材を作りました。

読解教材では、素材となる文章の論理的構造に着目した読みのスキルの習得をめざしています。読解編では報告文や論説文を読む力をつけ、論文読解編では学術論文を読むための基礎的な読解力を養います。一方、作文教材では、論文等の構成や展開パターンに即した練習を積みかさねることによって、学術的文章の作成技術の獲得をめざします。作文編では研究計画書の書き方を、論文作成編ではレポート、研究発表要旨、学術論文の基本的な書き方を学びます。

シリーズ中の各テキストは、一冊だけで学習することもできますが、併用すれば、より大きな学習効果が得られます。たとえば、読解編と作文編の各課の学習項目は、二冊を同時進行で使えばいっそう効果があがるように作られています。続刊の論文読解編と論文作成編の関係も同様です。また、読解編や作文編を終えた人は、論文読解編や論文作成編に進めば、より高次の読解力、作文力を身につけることができるでしょう。

このシリーズ教材は、東北地方の6大学の日本語教育関係者が、グループ内の執筆担当者が作った教材をくりかえし試用・補訂するかたちで、共同で作成したものです。数年にわたる教材作成の過程で、東京工業大学の仁科喜久子先生をはじめ、多くの方々に貴重なお助言とあたたかい励ましをいただきました。各専門分野の先生方や留学生にも、教材作成の素材や参考資料となる研究文献を快く提供していただきました。また、今回出版のはこびとなったのは、ひとえに株式会社アルク日本語出版編集部のご理解とご支援のたまものです。協力者の方々に心から感謝の意を表します。

# 本書をお使いになる方へ

## 1 本書の目的

- ・専門分野のレポート、論文、専門書などの論理的な文章を読むための基礎的な読解技術を養成することをめざしています。
- ・この教材がめざす基礎的な読解技術とは、次のものです。
  - ①文章構造に関する知識、文章の論理構造に関する知識、文法に関する知識
  - ②前読み、段落読み、情報検索、アウトライン作成、あと読みなどの読解スキルこれらを項目とし、明示的に提出しています。学習者は、意識してこれらの項目を学習することにより、読む力を効率的に身につけることができます。

## 2 本書の特徴

- ・I部（1～11課）とII部（12～14課）から構成されています。I部では基礎的な項目を学習します。II部ではそれをもとに、レポート、研究計画書、論文(一部)を読みます。
- ・本文の文章は、どの分野の学習者も知的好奇心をそえられるような内容で、しかも論理的な構造を持った文章です。
- ・本文の文章には原典を著作権者の了解を得て学習の目的に合うように書き変えたものと、本書の執筆担当者が書き下ろしたものがあります。
- ・重要語を【語句】の欄に挙げ、英訳、中国語訳、韓国語訳をつけました。
- ・各項目ごとに、ねらいを明確にした練習問題を数多く設けてあります。
- ・漢字のふりがなは、原則として漢字が読みの障害とならないように初級後半程度の漢字語句および読みかえ漢字にふりがなをつけました。ふりがなのつけかたは、親字の下部とし、同一語句は、原則として各ページの初出の語句のみにふりがなをつけました。

## 3 各課の構成と内容

- ・各課は、つぎの学習項目から構成されています。

## 第Ⅰ部(1～11課)

- I 読む前に
- II 本文
- III 読みの練習
- IV 構造
- V 読むための文法
- VI 読んだあとで

## 第Ⅱ部 (12～14課)

- I 読む前に
- II 本文
- III 理解問題
- IV 読んだあとで

### I 読む前に

- ・題名や図、絵から内容を予測することによって本文が読みやすくなります。
- ・トピックについて考えたり、学習者どうし話し合ったりすることによって、内容についての関心が高まり、予備知識が得られます。
- ・あらかじめ自分なりの読むポイントを設定することで、積極的に情報検索をしながら読むことができます。

### III 読みの練習 (第Ⅰ部)

- ・【問題】を順に解いていくことによって、全体の把握から細部の理解へという手順で本文が読めるように構成されています。段落読み(パラグラフ・リーディング)、情報検索(スキニング)、論理関係の分析などの読解スキルを習得します。
- ・スキニングの練習のため、この部分の日本語にはふりがながありません。学習者はまず漢字の形から検索する練習をします。

### III 理解問題 (第Ⅱ部)

- ・文章構成、論理関係、細部の意味の理解度を確認します。

### IV 構造 (第Ⅰ部)

- ・1～3課で文章の段落構造について学びます。4～11課で論理の構造を学びます。

- ・文章の構造：一語一語辞書を引きながら読んでいくのではなく、まず中心文を手がかりに各段落の主題を把握し、それによって文章全体の流れをつかみます。このように、各課の本文を、全体の流れを把握してから精読へ進むという手順で読むことによって、長い文章を効率的かつ正確に把握する力をつけていきます。
- ・論理の構造：論理的なつながりを示す表現と展開パターンを学習することで、レポート、論文などの読解に重要な、語と語、文と文、段落と段落の論理的関係を正確にとらえ、また、筆者の考え、意図を理解する力をつけます。

## V 読むための文法 (第I部)

- ・論理的文章に使われる頻度の高い項目を、読解の文法として学習します。

## VI 読んだあとで (第II部はIV)

- ・読んだあとで、意見や感想をまとめる、読む前に行った推測を確認する、話題を発展させる、などを行います。

### 4 授業での扱い方

- ・クラスのタイプと時間数に合わせて、様々な扱い方が考えられます。
- ・複数の大学における数年にわたる試用の結果、第I部については、授業の手順として次のような方法が可能でした。
  - ① I→II→III→IV→V→VI (本文を読んでから構造、文法を学習する)
  - ② IV→V→I→II→III→VI (構造、文法を学習してから本文を読む)
  - ③ I→II→III→IV→V→VI→II (①のあと最後にもう一度本文を読む)
- ・項目の説明部分の日本語は、中級のレベルの学習者にとってやや難しく、理解するのに時間がかかります。慣れるまでは、授業をなさる先生がクラスに合わせて口頭で、あるいは図を板書するなどして説明することが必要と思われます。
- ・各課については別冊子の解説をごらんください。
- ・本教材には語句の練習問題がありません。クラスに合わせ、語句の練習問題や宿題を作ることをお勧めします。巻末の【構造・文法で取り上げた表現】、【語句索引】が参考になります。

執筆担当 稲村真理子



# 目次

はじめに .....	3
本書をお使いになる方へ .....	4
<b>第 I 部</b> .....	9
<b>第 1 課 言葉の役割</b> .....	10
ことば                      わくあり	
構造                      : 文章の構造 段落内の構造	
読むための文法        : 書き言葉の文体	
<b>第 2 課 イルカと超音波</b> .....	16
ちりおん ば	
構造                      : 中心文 支持文	
読むための文法        : 連用中止形	
<b>第 3 課 地図の分類</b> .....	23
ちず                      ぶんるい	
構造                      : アウトライン 論理の構造 分類	
読むための文法        : 文の構造 1. 主語・述語 2. 名詞句	
<b>第 4 課 睡眠時間—短眠と長眠</b> .....	31
すいみん じかん        たんみん ちうみん	
構造                      : 定義	
読むための文法        : 「こと」	
<b>第 5 課 日時計</b> .....	37
ひ と けい	
構造                      : 経過	
読むための文法        : 助詞相当語	
<b>第 6 課 研究者の二つのタイプ</b> .....	45
けんきゆうしや	
構造                      : 比較・対照	
読むための文法        : 指示語	
<b>第 7 課 地球温暖化</b> .....	53
ちきゅうおんだん か	
構造                      : 原因・結果	
読むための文法        : 従属節①	
<b>第 8 課 風呂場の戸</b> .....	62
ふろば                      と	
構造                      : 位置	
読むための文法        : 従属節②	

第9課	手で数を表す	70
	構造	: 列挙・順序
	読むための文法	: 接続表現①
第10課	茶はどのようにして伝わったか	78
	構造	: 理由・根拠
	読むための文法	: 接続表現②
第11課	「タ」と「ハタケ」	87
	構造	: 筆者の意見を表す表現
	読むための文法	: 反語疑問文
第Ⅱ部		93
第12課	カラスの自動車利用行動	94
第13課	台湾南部の客家社会についての一考察	101
第14課	人間とロボットの協調動作に関する研究	106
	読むための文法 項目一覧	112
	構造・文法で取り上げた表現	113
	語句索引	115
	出典一覧	120

### 【凡例】

(1) 【語句】の番号は、本文の文の番号です。

例 0 虹：本文より前 [題名、**I 読む前に**] (P.10)にある言葉「虹」を意味します。

例 2 挙げる：本文の文2にある語句「挙げる」(P.11)を意味します。

(2) \*が付いている語は【語句】に訳が挙げられている語です。

# 第 I 部

レポート・論文・専門書などの文章を読むための基本的な読解  
の技術を学習します。

# 第1課 言葉の役割

ことば やくわり

## I 読む前に pre-reading

### ●話しましょう

1. あなたの国では、虹\*の色はいくつあると考えられていますか。それはどんな色ですか。
2. 日本では、虹の色は七色と考えられています。それは図1のような色です。  
あなたの国と同じですか。違うなら、どこが違いますか。また、違うのはどうしてだと思いますか。

### 【語句】

虹  
にじ

a rainbow

彩虹

무지개

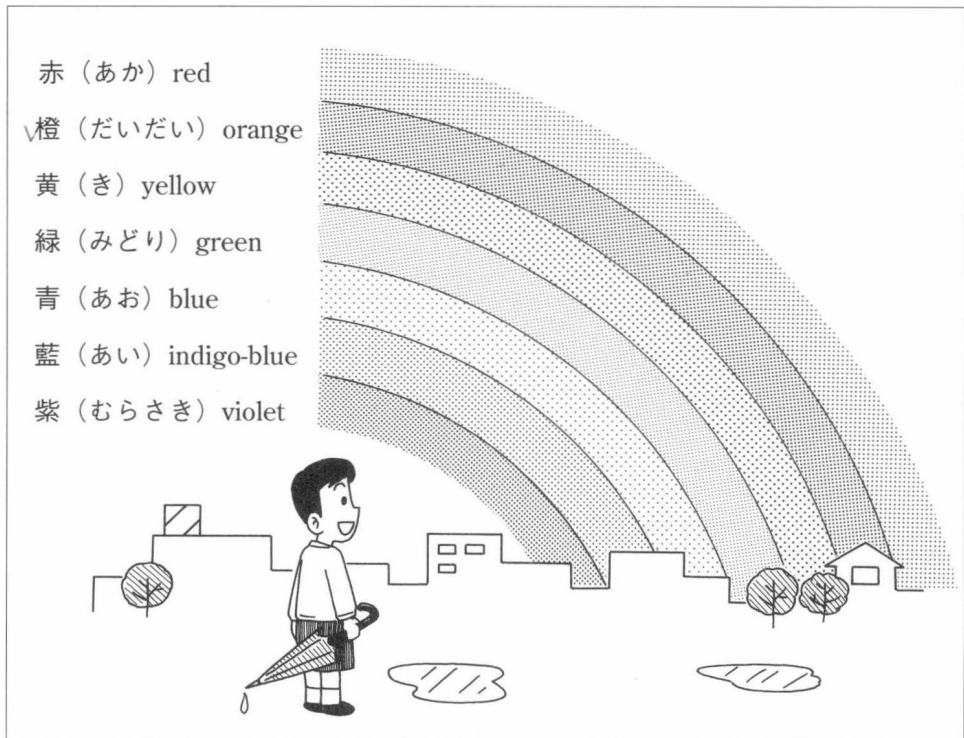


図1

II 本文 reading passage

言葉の役割  
ことば やくわり

<sup>1</sup>言葉の役割とは何だろうか。<sup>2</sup>まず挙げられるのは、「言葉は情報を伝える手段である」ということだろう。<sup>3</sup>我々は、音声や文字で表された言葉によって情報を伝え、情報を得ている。<sup>4</sup>だが、言葉の役割はそれだけではない。

<sup>5</sup>言葉には、あらゆるものを区切って、意味を与えるという役割がある。<sup>6</sup>虹の色を例にとろう。<sup>7</sup>日本では虹の色は七色だ。<sup>8</sup>だが、アメリカでは五色だという。<sup>9</sup>三色の民族も、八色の民族もあるらしい。<sup>10</sup>では、なぜ日本人には虹が七色に見えるのだろうか。<sup>11</sup>それは七つの言葉があるからである。<sup>12</sup>「赤、橙、黄、……」という言葉があるから赤と橙と黄色が別の色に見えるのである。<sup>13</sup>もし、ある民族が赤と橙を同じ言葉で呼んでいるとすれば、虹は七色には見えない。<sup>14</sup>つまり、言葉が色を区切っているのである。

<sup>15</sup>言葉の最も重要な役割は、このように、ものを認識する手段だということである。<sup>16</sup>ふだん我々は、自由にものを考え、話していると思っている。<sup>17</sup>しかし、実はそうではない。<sup>18</sup>我々は言葉によってものを考え、また、感じているのである。<sup>19</sup>つまり、言葉は我々の考え方や感じ方、すなわち、認識のしかたを規定しているのである。

〔樋口裕一『読むだけ小論文』(学習研究社)より〕

【語句】

0	虹 にじ	a rainbow	彩虹	무지개
1	役割 やくわり	a role	作用	역할
2	挙げる あ	to be offered	举	(예로)들다
	情報 じょうほう	information	信息	정보
	伝える つた	to convey	传达	전달하다
	手段 しゅだん	means	手段	수단
3	我々 われわれ	we	我们	우리
	音声 おんせい	sounds	语音	음성
	文字 もじ	letters	文字	문자
	得る え	to obtain	得到	얻다
5	あらゆる	all kinds of	全部	모든

	与える <small>あた</small>	to provide	给予	부여하다
6	例にとる <small>れい</small>	to take as an example	举个例子	예를 들다
9	民族 <small>みんぞく</small>	people groups	民族	민족
13	ある	a certain	某	어떤
15	認識 <small>にんしき</small>	identification	认识	인식
16	ふだん	usually	平时	보통
	自由に <small>じゆう</small>	freely	随便	자유롭게
19	規定する <small>きてい</small>	to prescribe	规定	규정하다

### Ⅲ 読みの練習 exercise

たくさんの文字の中からある情報をさがすときは、漢字の形、数字、記号などに注目してさがしましょう。

漢字の読み方や意味がわからなくても、まず字の形からさがす練習をしてみましょう。

【問題1】本文からさがして、下線部にことばを書きなさい。

1. 言葉は情報を\_\_\_\_\_手段である。
2. 我々は、音声や\_\_\_\_\_で表された言葉によって、情報を伝えている。
3. 日本では虹の色は\_\_\_\_\_色だ。
4. 言葉の最も重要な役割は、ものを認識する\_\_\_\_\_だということである。

【問題2】本文を読んで、次の文が正しければ○、そうでなければ×をつけなさい。

- ( ) 1. 言葉の役割は情報を伝えることだけではない。
- ( ) 2. 虹の色は、どこの国でも七色である。
- ( ) 3. 日本の虹の色は七色である。それは日本人が「七」が好きだからだ。
- ( ) 4. 言葉は、ものを認識する手段である。

## IV 構造 structure

### 1. 文章の構造 text structure

- ・論文や専門書などの論理的な文章は段落 (paragraph) からできています。→ 図2  
ろんぶん せんもんしょ ろんりてき だんらく
- ・一つの段落には一つのまとまった内容が述べられています。  
ないよう の
- ・段落の最初は一字あけて書かれています。

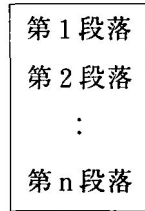
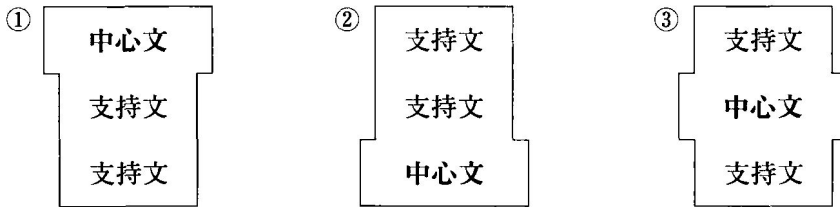


図2

### 2. 段落内の構造 paragraph structure

- ・段落のいちばん中心的文章を中心文 (topic sentence) といいます。  
ちゅうしんぶん
- ・中心文は段落の話題 (topic) や主題 (theme, main idea) を述べています。→ 第2課  
わだい しゅだい
- ・その他の文は支持文 (supporting sentence) といいます。  
しじぶん
- ・支持文は主題や話題についてくわしい説明、例などを述べています。→ 第2課  
せつめい
- ・段落内の構造には次のタイプがあります。



- ① 日本は島国である。まわりはすべて海にかこまれている。どこの国とも陸で続いている。  
りく
- ② みその原料は大豆である。しょうゆの原料も大豆である。とうふも大豆から作られる。大豆は日本人にとって大切な食品なのである。  
げんりょう だいず
- ③ 漢字は中国の文字である。ところが、日本語の漢字の中には日本で作られたものもある。たとえば、「畑」、「込む」、「辻」、「枠」などである。  
こ つじ おく

【問題1】本文の構造を見て、( ) に文番号を書きなさい。

第1段落	文 1 ~ 文 ( )
第2段落	文 ( ) ~ 文 ( )
第3段落	文 ( ) ~ 文 ( )

## V 読むための文法 grammar

### 1. 書き言葉の文体 ぶんたい the style of written Japanese

書き言葉の文体には「です・ます体 (polite style)」、「だ体 (plain style)」、「である体 (expository style)」があります。論文や専門書などには「だ体」、「である体」が使われています。次の表は各文体の文末表現です。

	です・ます体	だ体	である体
名詞	学生です 学生でした 学生ではありません 学生ではありませんでした	学生だ 学生だった 学生ではない 学生ではなかった	学生である 学生であった
な形容詞	便利です 便利でした 便利ではありません 便利ではありませんでした	便利だ 便利だった 便利ではない 便利ではなかった	便利である 便利であった
い形容詞	大きいです 大きかったです 大きくないです 大きくありませんでした	大きい 大きかった 大きくない 大きくありませんでした	
動詞	行きます 行きました 行きません 行きませんでした	行く 行った 行かない 行かなかった	
その他	～でしょう ～のです	～だろう ～のだ	～であろう ～のである



